



シリーズ豊前市 SDGs とは？

“誰一人取り残さない持続可能な社会”を実現する世界共通目標である SDGs。全部で 17 個ある SDGs の目標を、地域の視点を取り入れ、そして一人一人ができる取組事例を取り入れて、毎月 1 つずつご紹介していく 2022 年 1 月から開始した連載です。地域の未来のために、私たちと私たちの大切な人が持続可能であるために。豊前で始める最初の第一歩。毎月 SDGs を一緒に学びながら、**自分にできることを一緒に始めていきましょう。**

目標3「すべての人に健康と福祉を」 みんなが健康で長生きできるように

今、世界中には基礎的な医療サービスを受けられない人が世界人口の約半分、36 億人もいます。そして 5 歳の誕生日を迎える前に亡くなる子どもたちが年間約 560 万人もいます。これは 5 秒に 1 人の子どもが命を落としている計算になります。病気になっても適切な治療を受けられれば、また健康を取り戻せるのに、予防接種やワクチンといった基礎的な医療サービスを受けられないことで亡くなっている命が今の世界にはたくさんあります。

「基礎的な医療サービス」とは健康診断や予防接種、病気や怪我の治療、避妊などの性教育、家族計画といった、人々の健康増進・予防・治療・機能回復のために行われるサービスのことを言います。日本では当たり前のように感じることも、途上国では、この基礎的な医療サービスがまだまだそろっていません。世界のすべての人が十分な医療を受けられるようになるための環境を整えていくことや、すべての人が正しい感染症の予防法や自分の身体を守るための知識を持つていくことがとても大切です。

3 GOOD HEALTH AND WELL-BEING

今月は目標3



3 すべての人に健康と福祉を



豊前市の取組 | わたしのあんしん連絡カード



日本で生まれた母子手帳が、今、途上国を中心に世界に広まっており、お母さんと子どもの継続した健康維持に役立っています。パレスチナでは 2008 年に、世界初のアラビア語版母子手帳が発行され、紛争によって難民となった母と子どもは、母子手帳のおかげで避難先でも継続して医療サービスが受けられました。現在では母子手帳を持っていない難民にも配布され、現地では「生命（いのち）のパスポート」と呼ばれています。これに似た健康維持に役立つ取組をご紹介します。「わたしのあんしん連絡カード」をご存じですか？災害やいざという時に必要になる、緊急時の連絡先や既往歴、食べ物のアレルギーなどの情報を書くカードです。お薬手帳や健康保険証にはさんでおくと、病院や介護など関係機関が情報を共有し適切な対応をしてくれます。どなたでも使用可能です。積極的に「わたしのあんしん連絡カード」を使いましょう。豊前市地域包括支援センターや地域の病医院・歯科医院・調剤薬局でも配布しています。またインターネットからもダウンロードできます。



お問合せは 豊前市地域包括支援センター ☎84-0120  
ダウンロードは わたしのあんしん連絡カード 豊前 で検索

SDGs の主人公はわたしたち 身近なところにある SDGs 一人一人ができる取組事例



目標 3「すべての人に健康と福祉を」は心も体も元気で皆が幸せな社会を目指す目標です。今回ご紹介する取組以外にも、個人でできる取組はたくさんあります。4月配布の豊前市健康づくりカレンダーのほか、新聞や公共施設など周囲に目を向け、身近に自分ができる取組みが紹介されていないか、そしてヒントが隠れていないか探し、できることから始めましょう。

<わたしたちにもできること>

- ① 世界的な医療課題に興味を持ち、ワクチンなどの募金に参加する
- ② 定期的に健康診断を受ける
- ③ 運動の習慣化、食生活の改善など、健康に気をつかう
- ④ 病気や感染の予防をする(マスクなど)

株式会社ニコン日総プライム 水谷洋司(英国 CMI 認定サステナビリティ(CSR)プラクティショナー)